

外貨投資の視点 (No.292)

リサーチ部 チーフ為替ストラテジスト 植野 大作

2016年9月2日

ドル円相場日誌【2016年8月版】

「ドル円相場日誌」月次配信の目的

三菱UFJモルガン・スタンレー証券リサーチ部では、お客様にご提供させて頂く為替関連情報の拡充を目的として、2012年10月分を皮切りに「ドル円相場日誌」を「外貨投資の視点」の一環として発行することに致しました。内容は毎月のドル円相場の変動及びその背景となった主な材料やマーケット・トーク等の「備忘録」です。

「温故知新」という四字熟語を改めて引用するまでもありませんが、為替相場の潮流変化を読み解く際には、必ずしも「鮮度の高い情報」ばかりが有用ではなく、むしろ日々蓄積されては忘却の彼方へ埋もれていく「古い情報の回顧録」の中に相場観涵養の「ヒント」が潜んでいる場合もあります。ドル円市場参加者の皆様が日々の為替変動と向き合う際の参考情報としてご活用いただければ幸甚です。

「ドル円相場日誌」ご利用上の注意点

なお、この忘備録では日々のオセアニア、東京、ロンドン、ニューヨーク(NY)の各市場で注目された材料やマーケットの噂などを、なるべく網羅的に記載することを心掛けていますが、原則としてドル円相場で材料視されたものが中心であり、他通貨市場で話題になった場合でも、ドル円相場に甚大な影響を及ぼさなかったとみられるものは記載していません。また、各営業日の日付は、月曜日の場合にはオセアニア市場の早朝、それ以外の営業日については東京市場の朝方からNY市場の夕刻までを1日として取り扱っております。日本時間の0:00から24:00が日付認知の基準ではございません。このため、日本時間24:00を超える時間帯に相場を動かした材料の記述に際しては、例えば深夜3:00から27:00と記載し、NY市場の引けまでを同営業日内の出来事として取り扱っています。

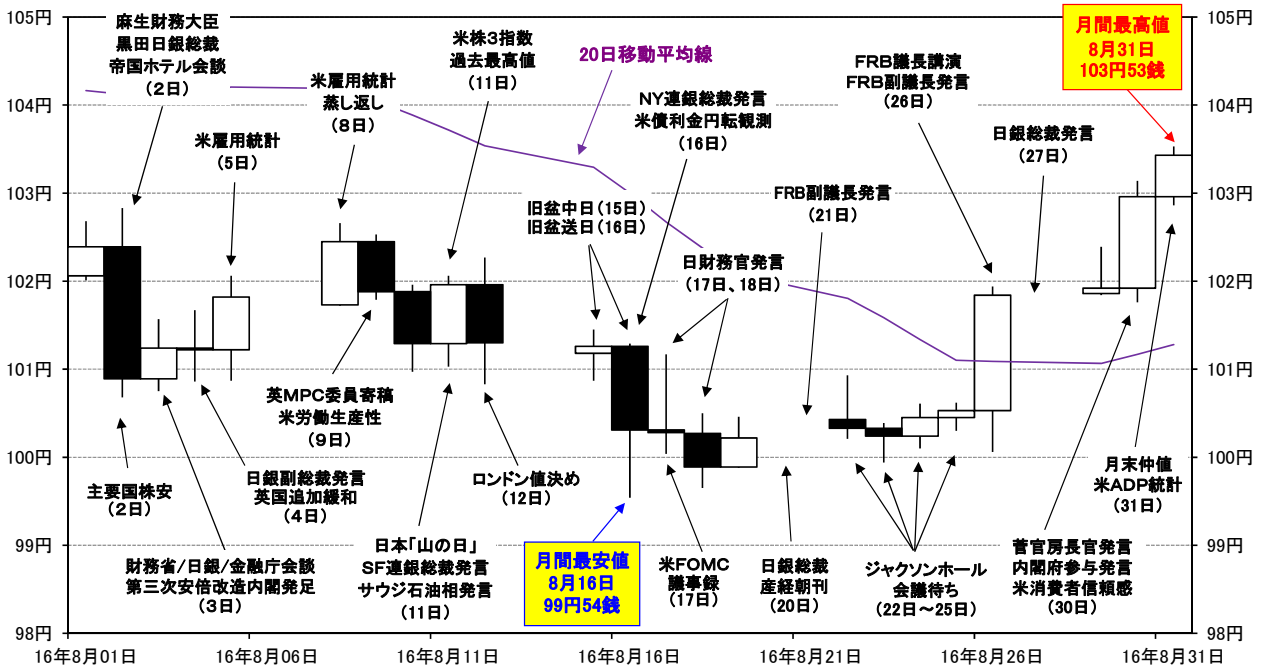
文中の青いフォントで下線を引いた値は、当該時点でのドル円相場の月初来安値、赤いフォントで下線を施した数字は当該時点での月初来高値です。また、本文中に記載するドル円相場の数値については、ブルームバーグ社提供のBGNデータを用いております。データの記載にはなるべく正確を期しておりますが、レート配信元の違いなどにより、当日の高値や安値に関して微妙な違いがある場合がございますのでご留意下さい。

また、配信日時は原則として、当該月終了翌月の上旬といたします。次回2016年9月分の配信は、2016年10月上旬の予定です。

……(次ページ以降に月間の材料日足対応グラフと本文を掲載)……

本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

図1:ドル円相場(日足):2016年8月の歩み



出所:ブルームバーグより三菱UFJモルガン・スタンレー証券作成

8月1日(月)

週明けオセアニア市場の寄り付きは102円06銭。直後に102円05銭に小緩んだ後、日本時間未明の薄商いの中で神経質な売買が錯綜、一時102円35銭付近に急伸したのち102円10銭台に押し戻されるなど、方向感の出にくい展開が続く。日本時間6:00前に一時102円37銭まで切り返す場面もあったが、東京勢の本格参加が始まると一気に値を下げ、一時102円01銭と未明の安値を下抜け。ただ、整数節目の手前が堅く、国内輸入企業のドル買いも下値サポートとして意識されると仲値公示を挟んで断続的に値を上げ、一時102円68銭と日通し高値を記録。ただ、この水準では伸び悩み、午前中の需給トークが一巡すると反落、102円30銭台～40銭台に押し戻されて保ち合い。欧州時間帯に入り、序盤はドル買い・円売りが先行、一時102円61銭まで上伸したが、午前中の高値が抵抗帯として意識されると反落、夜間取引の日経平均先物の下落も心理的な重石となり、一時102円13銭まで軟化。ただ、この水準ではアジア時間帯の下値を止めた国内輸入企業によるドル買い注文の厚さも意識されて下げ渋り、102円20銭前後～30銭前後に買い戻されて一進一退。NY時間帯に入り、ロンドン市場から軟調に推移していた原油価格の下落が加速すると対資源国通貨で米ドル高が進み、ドル円も一時102円50銭付近へ上昇したが、同じ理由でクロス円では円高も進んだため、102円20銭台に押し戻されたのち、再び102円50銭付近に切り返すなど、方向感の出にくい状態に。原油価格の下落を嫌気して石油関連株を中心に米国株が軟調に推移すると再び軟化、一時102円12銭界限へ差し込む場面もあったが、ハイテク株や薬品株が相場を支えて株価が下げ渋るとドル円も買い戻され、102円40銭台に値を戻す。102円40銭前後で東京勢の参入待ち。

8月2日(火)

東京時間帯は上伸後に反落。序盤はドル売り・円買いがやや優勢に始まり、寄り付き後の日経平均株価の下落が嫌気されると市場のリスク許容度が委縮、一時102円23銭付

本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

近へ弱含んだが、仲値を挟んで実需のドル買いが観測されると反発、102円40銭台に値を戻す。その後、帝国ホテルで黒田日銀総裁と異例の会談を持った麻生財務大臣が「為替市場が神経質な動きを見せている」、「為替の振幅が激しいことはあまり良くない」などと発言すると急伸、一時102円83銭と前日高値を上抜け。ただ、この水準では上値が重く、麻生発言を好感して反発した日本株の戻りの鈍さが確認されるとドル売り・円買いが再び優勢になり、一時102円01銭まで軟化。ただ、前日安値に面合わせすると押し目買いも入り、102円45銭界限まで切り返す。この間、豪州準備銀行(RBA)が政策金利を1.75%から1.50%へ引き下げ、豪ドル米ドルが急落する場面もあったが、利下げは市場予想通りだった上、声明文中に追加利下げへの言及がなかったことですぐに反発、豪ドル円も同様の反応を示したため、米ドル円相場への影響は限られた。欧州時間帯に入り、夜間取引の日経先物や主要な欧州株指数が軟調に推移すると市場のリスク許容度緩和ムードが後退、節目の102円00銭を下に抜けると断続的なドル売り・円買いが加速、一時101円46銭まで差し込んで7月11日以来の安値圏に下落。急ピッチの売りが一服するとショートカバーが優勢になり、101円80銭台まで買い戻されたが、この水準では上値が重い。NY時間帯に入り、序盤からドル売り・円買いが先行、ストレートドル市場で全般的にドル安が進んだほか、7日続落するNYダウの冴えない動きが重石となり、一時100円68銭と7月11日以来の安値圏へ軟化。引けにかけてNYダウが下げ渋るとドル円の下値も切り上がったが、100円90銭台では上値が重い。100円90銭前後で東京市場にバトンタッチ。

8月3日(水)

東京時間帯はレンジ取引。前夜の大幅安に対する反動で序盤はドルの買い戻しが先行、一時101円35銭付近まで上昇したが、戻りの鈍さが嫌気されると反落、日本株の冴えない動きも重石となり、午後には一時100円75銭まで値を下げる。ただ、前日安値の手前が下値抵抗帯として意識されると底堅く、「財務省が15:00から日銀・金融庁との会合を開催する」との報道が伝えられると反発したが、101円10銭台では上値が重く、100円88銭付近に押し戻される。欧州時間帯に入り、序盤は財務省・日銀・金融庁会合の結果を睨んでドル買い・円売りが先行一時101円28銭界限へ強含んだが、その後伝えられた浅川財務官の円高牽制発言が即座の為替介入を示唆する内容ではないと解釈されると反落、夜間取引の日経平均先物の下落も重石となり、一時100円93銭付近まで軟化。ただ、節目の101円00銭を割り込むと押し目買いも入り、下値の堅さが確認されると一転反発、一時101円38銭まで上昇して東京高値を僅かに上抜け。もっとも、「間もなく発表される米経済指標の結果を見極めたい」とのムードが広がると上値が重くなり、101円00銭台に押し戻される。NY時間帯に入り、序盤に発表された米7月ADP全米雇用報告が前月比+17.9万人と市場予想の同+17.0万人を僅かに上回ると反発したが、101円20銭台では上値が重く、101円01銭付近へ押し返される。整数節目の手前で下げ渋ると反発したが、101円20銭台では伸び悩んで様子見。ただ、この日の米国市場では連日にわたって大幅に下げている原油価格が3営業日ぶりに反発、NYダウも8営業日ぶりに上昇したため、過度のリスク・オフ・ムードが後退、ドル買い・円売りが優勢になると一時101円57銭まで上伸して日通し高値を記録。この間、この日の内閣改造で新たに発足した第三次安倍再改造内閣で地方創生行革担当大臣として初入閣を果たした「アベノミクス」山本幸三衆議院議員が「財政・金融政策でデフレからの脱出速度を上げる」などと発言したことも、一部で円売り材料視されたのではないかと指摘もあった。もっとも、この水準では戻り売り圧力も強く、日本時間24:00のロンドン・フィクシングに絡んだドル売りが観測されると失速、断続的な

本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

下値探査が再開されると一時101円10銭限界まで続落。米国市場の大引けにかけてNYダウが強含むとドル円も若干切り返し、101円20銭前後で東京勢の参入待ち。

8月4日(木)

東京時間帯は下落後に反騰。原油価格と米国株の反発が好感された前夜の流れを引き継ぎ、序盤はドル買い・円売りがやや優勢に始まり、一時101円37銭まで値を上げる。ただ、日本株が伸び悩むと市場のリスク許容度緩和ムードが後退、商品投資顧問(CTA)筋による売りの噂で日経平均株価がマイナス圏に反落するとパッケージ売りの連想からドル売り・円買いが一転加速、横浜で講演した日銀の岩田副総裁が金融政策の「総括的な検証」について「特定の方向性を考えている訳ではない」などと述べたことが伝えられるとマイナス金利付き量的・質的金融緩和の戦線縮小観測が台頭して円高が加速、一時100円86銭付近へ急落。ただ、節目の101円00銭を割り込むと下値も堅く、後場寄り後の日経平均株価がプラス圏に浮上してくるとドル円も反発、101円40銭台まで上伸。その後は一旦101円30銭台に伸び悩んだが、午前中の講演会での発言が円高材料視されてしまった岩田副総裁が「総括的検証の目的はできるだけ早期に2% (の物価目標) を達成するため」、「今までの緩和の程度を縮小することはあり得ない」などの見解を示すと今度は一転円売り材料視され、一時101円67銭と日通し高値を記録。ただ、この水準では上値が重く、欧州時間帯に入ると利益確定売りが優勢になり、101円30銭付近へ押し戻される。その後は一旦101円50銭台に切り返したが、英国中銀(BOE)の金融政策発表を控えた警戒感が広がると反落、101円20銭台に値を落とす。日本時間20:00に英金融政策委員会(MPC)が「政策金利を0.50%から0.25%に引き下げる」、「英国債に対する資産買入れプログラム規模を3750億ポンドから4350億ポンドに引き上げる」、「9月半ばから投資適格事業債を18ヶ月間で100億ポンド購入する」などの金融緩和策を発表、議事要旨では「過半数のメンバーは年末までに政策金利を0%付近まで引き下げると予想」と記載されていたことが明らかになると市場予想を上回る金融緩和に反応して債券売りが活発化、債券円市場での円高と債券ドル市場でのドル高圧力がせめぎ合ってドル円は101円20銭台～40銭前後で乱高下したが、クロス円絡みの円高圧力が次第に優勢になるとジリジリと売り進まれ、一時101円11銭付近へ軟化。NY時間帯に入り、新規参入してきた米国勢が債券を一段と売り進めると当初は債券円の下落に反応してドル円も続落、一時101円00銭限界まで差し込む場面もあったが、整数節目の堅さが確認されると今度は一転債券ドル市場でのドル買いが意識され、101円20銭前後に持ち直す。NY市場の引けにかけては持ち高調整中心の値動きとなり、101円10銭台に小緩んだ後、101円20銭台で東京市場にバトンタッチ。

8月5日(金)

東京時間帯は上値が重い。朝方は様子見売りが錯綜、101円10銭台～20銭前後までのレンジ取引が続いたが、前夜に発表された英国中銀(BOE)の大規模緩和による株高期待で日経平均株価が高寄りすると市場のリスクセンチメントが改善、一時101円37銭付近へ強含む。ただ、米雇用統計の発表を夜に控えて積極的な上値追いは手控えられ、後場の日本株が小幅マイナス圏に下落するとドル円も軟化、101円03銭限界へ押し戻される。欧州時間帯に入り、101円00銭手前の堅さが確認されると反発、101円10銭台に復帰したが、時間外取引のNYダウ先物が軟化すると反落、一時100円87銭まで差し込んで日通し安値を記録。ただ、米雇用統計の発表時刻接近が意識されると下値探査が一服して買い戻され、101円00銭台～10銭前後までの狭いレンジでしばらく膠着。NY時間帯

本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

に入り、日本時間21:30に発表された米7月雇用統計で非農業部門雇用者数が前月比+25.5万人と市場予想の同+18.0万人を大きく上回ったほか、平均時給の伸びも前月比+0.3%と市場予想の同+0.2%より高めだったことが判明すると急伸、米国債利回りの大幅上昇やNYダウの反発も追い風となり、一時102円06銭まで吹き上がる。もともと、節目の102円00銭を超えると上値が重く、101円70銭台に押し戻される。その後は週末接近を意識した様子見売買に終始、101円72銭～101円84銭までの狭いレンジで一進一退。101円82銭で1週間の取引を終了。

8月8日(月)

週明けオセアニア市場の寄り付きは101円73銭。直後に小緩み一時101円72銭を記録する場面もあったが、非常に良好な結果になった前週末の米7月雇用統計の結果が蒸し返されると日本時間未明の薄商いの中で神経質な売買が錯綜、一時102円19銭界限へ急伸したのち、101円77銭付近へ急落。東京勢の本格参入が意識されると小反発、101円90銭前後～102円00銭台での様子見売買が続いたが、前週末の米国株高を好感した日本株の高寄りを見込んだリスク許容度緩和観測が広がると上値探査を活発化、一時102円26銭まで上伸してオセアニア時間帯の高値を上抜け。ただ、この水準では上値が重く、一旦102円10銭前後に押し戻された後、再び102円26銭界限へ切り返してダブル・トップを完成させると反落、断続的に101円90銭台に押し戻される。もともと、この日の東京市場では高寄りした日経平均株価が終日堅調に推移、上昇幅を拡大したため、ドル円相場の下値も堅く、102円20銭付近へ切り返す。欧州時間帯に入り、序盤は102円10銭台で保ち合っていたが、時間外取引のNYダウ先物が急伸するとドル買い・円売りが活発化、一時102円46銭まで値を上げる。NYダウ先物が伸び悩むとドル円も反落したが、102円30銭台では下値が堅い。NY時間帯に入り、序盤はドル買い・円売りが先行、NYダウの高寄りが好感されると上値探査を活発化、一時102円66銭まで吹き上がって日通し高値を記録。前週末の米7月雇用統計の内容を好感して大幅に上昇した反動でNYダウが利益確定売りに押されてマイナス圏に沈むとドル円も反落したが、102円30銭台では下値も堅い。102円40銭台で東京市場にバトンタッチ。

8月9日(火)

東京時間帯は保ち合い。朝方は神経質な売買が錯綜、102円40～50銭までの狭い値幅でレンジ取引。英金融政策委員会(MPC)のマカファティール委員がタイムズ紙への寄稿で追加利下げの可能性を示唆するとポンド円が下落、ドル円もつられて一時102円27銭まで軟化したが、同じ材料に反応してポンドドル市場ではドル高が加速したためドル円も反発、一時102円53銭と日通し高値を記録。その後は対ポンドでのドル高と円高が概ね拮抗、102円40銭を挟んで一進一退。欧州時間帯に入り、序盤はドル買い・円売りが先行、一時102円51銭界限へ強含んだが、東京高値の手前で失速、原油価格の上昇に伴い対資源国通貨でのドル安が進んだ煽りも受け、一時102円16銭付近へ軟化。ただ、ほぼ同じタイミングで時間外取引のNYダウ先物が堅調に推移していたため下値も堅く、102円27銭界限まで小反発。NY時間帯に入り、序盤に発表された米4-6月期非農業部門労働生産性が予想外の前期比マイナスになったことが報じられるとドル安・円高が加速、米10年国債利回りの低下も重石となり、一時101円81銭とロンドン時間帯の安値を下抜け。米10年国債利回りが下げ渋ると一旦102円00銭台に持ち直す場面もあったが、米長期金利が再び軟化、下落幅を拡大すると反落。一時101円79銭まで差し込んで日通し安値を記録。

本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

NY市場の終盤にかけては持ち高調整で下げ渋ったが101円90銭台では上値が重い。101円80銭台で東京勢の参入待ち。

8月10日(水)

東京時間帯は軟調。序盤はドル買い・円売りやや優勢に始まり、一時101円96銭界限へ強含む場面もあったが、節目の102円00銭手前の重さを確認すると反落、安寄りした日経平均株価の冴えない動きが嫌気されると市場のリスクセンチメントが悪化、午前中に一時101円16銭付近まで値を落とす。日銀によるETF購入への期待で日経平均株価が持ち直し、一時プラス圏に浮上してくるとドル円も買い戻されたが、101円40銭台では上値が重い。日経平均株価が大引けにかけて反落、再びマイナス圏に押し戻されるとドル円も失速、一時101円13銭まで軟化して午前中の安値を僅かに下抜け。日本市場の祝日入りを意識した持ち高調整が入ると切り返したが、101円40銭前後では伸び悩み。欧州時間帯に入り、日本株引け後に報じられた「日銀のETF購入金額が700億円を超えた」との観測が好感されると市場のリスクセンチメントが改善、一時101円56銭界限へ上伸したが、翌日の日本市場がこの年から新たに制定された「山の日」の祝日となり、実質的なお盆休み入りするとあつて上値探索も限定的。「日銀によるETF購入だけにサポートされた日本の株高期待は異常」との指摘もあり、夜間取引の日経平均先物が軟化するとドル円も反落、一時101円05銭と東京午後の安値を下抜け。NY時間帯に入り、序盤はドル売り・円買いの流れが継続、米10年国債利回りの低下も心理的な重石となり、一時100円97銭と日通し安値を記録。ただ、節目の101円00銭を割り込むと押し目買い注文も手厚く、日本時間24:00のロンドン・フィクシングに向けて全般的にドルが買い進まれるとドル円も反発、一時101円40銭界限へ持ち直す。もっとも、翌日が日本市場の祝日とあつて活発な売買は盛り上がりせず、上値の重さが確認されると101円20銭台に押し戻される。NY市場の終盤に向けては方向感を見失い、101円20銭台～30銭台までの狭いレンジで保ち合い。101円30銭前後でアジア・オセアニア市場にバトンタッチ。

8月11日(木)

東京時間帯は底堅い。日本市場が祝日で円絡みの取引が薄い中、日本時間6:00にニュージーランド準備銀行(RBNZ)が市場予想通りの政策金利引き下げ(2.25%→2.00%)を発表すると材料出尽くしムードが広がってNZドルが急騰、ストレートドル市場でのNZドル買い・米ドル売りが急速に進んだ煽りを受けて米ドル円も一時101円05銭付近まで軟化。ただ、ほぼ同じタイミングでクロス円市場ではNZドルが買われて円が売られたため、米ドル円市場への影響も限られ、下値の堅さが確認されると反発、101円20銭前後へ切り返す。日本市場が祝日とあつて市場取引薄い中、日経平均先物とドル円がほぼ同時に売り進まれる怪しい動きが観測されると再び軟化、一時101円03銭と早朝安値を僅かに下抜けする場面もあったが、追随勢力の不在が確認されるとすぐに反発、午後には一時101円49銭付近まで反発。ただ、日本市場が実質お盆休み入りする中で円絡みの売買は盛り上がりせず、101円50銭の手前の重さが確認されると方向感を見失い、101円37銭～48銭までの狭いレンジでしばらく膠着。欧州時間帯に入り、特段の手掛かりとなる材料見当たらない中でクロス円を睨んだ展開となり、ユーロ円やポンド円が下落するとドル円も釣り込まれて軟化、断続的に101円19銭まで弱含む場面もあったが、クロス円が反発するとドル円も切り返し、101円50銭付近へ上伸。ただ、アジア時間帯の高値を抜けると伸び悩み、101円30銭台～40銭前後のレンジに押し戻されて一進一退。NY時間帯に入り、序盤はドル売り・円買いが先行、米10年国債利回りの低下も重石となって一時101円17銭界限

本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

へ軟化したが、101円20銭を割り込むと底堅い。この日の米国株式市場ではNYダウ、S&P500、ナスダックの主要3指数が揃って史上最高値を更新して市場のリスクセンチメントが改善したほか、サウジアラビアのファリハ・エネルギー相が「来月に開催される石油輸出国機構(OPEC)の非公式会合で市場安定に必要な施策について協議する」と述べたことが好感されて原油価格が大幅に上昇、米国10年債利回りが3営業日ぶりに反発したため、午後に入るとドル買い・円売りが活発化、一時102円06銭まで上伸して日通し高値を記録。この間、ウィリアムズ米サンフランシスコ連銀総裁が、米ワシントンポスト紙とのインタビューで「年内の利上げが適切になる可能性」について言及したことも、一部でドル買い・円売り材料視された模様、もともと、節目の102円00銭を抜けると上値が重く、101円80銭台に小緩んだ後、101円90銭台に買い戻されて祝日明け東京勢の参入待ち。

8月12日(金)

東京時間帯は底堅い。前夜のNY市場でドル高・円安が進んだ反動から朝方は利益確定売りが先行、一時101円77銭まで小緩んだが、米国株式市場で主要3指数が揃って史上最高値を更新したことを好感して日経平均株価が高く寄り付き、上昇幅を拡大すると市場のリスクセンチメントが改善、一時102円21銭界限まで上伸。ただ、この日の東京市場は前日の祝日と土日の狭間の金曜日とあって活発な為替売買は盛り上がりせず、実質的なお盆休み入りの雰囲気が強まるとドル円の上値探査は一巡、正午過ぎには101円92銭付近へ小反落。もともと、節目の102円00銭を割り込むと下値が堅く、後場の日本株が上昇幅を拡大するとドル買い・円売り圧力が微妙に強まり、102円15銭付近へ切り返す。その後は本格的なお盆休み入りが意識される中で方向感を見失い、101円97銭～102円16銭までの狭い値幅で一進一退。欧州時間帯に入り、時間外取引のNYダウ先物が堅調に推移するとドル買い・円売り圧力がやや強まり、一時102円27銭と日通し高値を記録。ただ、米国の経済指標発表を控えた様子見ムードでNYダウ先物が反落するとドル円の上値探査も終了、102円00銭前後に押し戻される。NY時間帯に入り、米7月小売売上高や米7月生産者価格がともに市場予想を大幅に下回ると急落、一時100円92銭まで差し込んで東京安値を大幅に下抜け。節目の101円銭を割り込むと押し目買いが入って下げ渋り、一時101円20銭界限まで持ち直す場面もあったが、日本時間24:00のロンドン・フィクシングに向けて週末絡みのドル売りが持ち込まれると反落、一時100円83銭と日通し安値を記録。もともと、ここまで下げるとリーブ・オーダーによる押し目買い注文もヒット、冴えない米経済指標の結果を受けて急落していた米10年国債利回りの反発も追い風となり、一時101円33銭付近まで切り返す。101円30銭で週末取引を終了。

8月15日(月)

週明けオセアニア市場の寄り付きは101円18銭。日本時間未明の薄商いの中、序盤は少額売買が錯綜、一時101円07銭付近へ差し込む場面もあったが、東京勢の参入が始まると週明けゴトウ日の仲値に絡んだドル買いが意識され、午前中に一時101円45銭と日通し高値を記録。ただ、日本の多くの地域が旧盆の中日を迎える中で円絡みの為替売買は通常より少なく、午前中の需給トークが一巡すると反落、101円20銭台に押し戻される。その後は一旦101円30銭台に復帰する場面もあったが、日銀による上場投資信託(ETF)買い観測が不発に終わると日本株が軟化して市場のリスク許容度緩和ムードが後退、一時101円10銭界限へ続落。オセアニア序盤の安値が意識されると下げ渋り、一時101円18銭付近に持ち直したが、欧州時間帯に入ってロンドン勢の参入が本格化すると、ドル売り・円買い圧力が強まり、一時100円87銭と日通し安値を記録。時間外の米10年国債利回

本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

りやNYダウ先物が反発するとドル円も切り返したが、101円10銭前後の上値が重く、100円90銭台に押し戻される。NY時間帯に入り、米国株価が堅調に推移、NYダウやナスダックが過去最高値を更新すると市場のリスクセンチメントが改善してドル買い・円売り圧力が徐々に強まり、一時101円20銭台まで反発。日本時間24:00のロンドン・フィクシングに向けたドル売りが観測されると一時100円99銭付近に押し戻される一幕もあったが、史上最高値圏で堅調に推移する米国株を眺めて米国債利回りが上昇するとドル買い・円売り圧力が再燃、一時101円28銭界限へ切り返す。ただ、この水準では伸び悩み、ロンドン時間帯から買い進めた向きの利益確定売りが散見されると小反落、101円10銭台に押し戻された後、101円20銭台で東京勢の参入待ち。

8月16日(火)

東京時間帯は大幅に下落。日本の多くの地域が旧盆の送り日となって材料夏枯れムードが漂う中、序盤は101円20銭台でのレンジ取引で始動、一時101円29銭付近へ強含んだが、101円30銭の手前で失速、結果的にはこの水準がこの日の高値に。その後は特段の手掛かりとなる材料が見当たらない中で下値探査が加速、8月2日に記録した月初来安値の100円68銭を割り込むと断続的なストップロスが誘発され、一時100円15銭まで値を落とす。日本のお盆休み期間中で円絡みの為替売買が薄くなる中、「米国債の四半期入札に絡んだ元利金の円転観測なども口実に一部海外勢による円買い仕掛けがヒットしたのではないか」との指摘があった。欧州時間帯に入り、序盤はアジア時間帯に売り進めた向きのショートカバーで下げ渋ったが、101円40銭前後の上値が重い。日本時間18:00過ぎ頃から背景のよく分からないドル売り・円買いが活発化すると東京安値を下に抜け、節目の100円00銭も突破すると一時99円80銭界限まで続落。その後は一旦下げ渋ったが、NY時間帯に入り、序盤に発表された米7月消費者物価コア指数の伸びが市場予想を下回ると一段安となり、一時99円54銭と6月24日以来の安値圏に突入。ただ、節目の100円00銭を割ると押し目買い注文も散見されたほか、ダドリー米NY連銀総裁が「9月の利上げ再開はあり得る」などと発言すると急伸、一時100円53銭まで買い戻される。急激なショートカバーが一巡すると反落したが、100円10銭台では下げ渋り、100円30銭台に持ち直しつつ、東京市場にバントタッチ。

8月17日(水)

東京時間帯は上伸後に伸び悩み。約8週間ぶりに節目の100円00銭を割り込んだことへの警戒感が広がる中、朝方は断続的な下値探査が先行、一時100円17銭付近に弱含む場面もあったが、浅川財務官が「為替市場に激しい動きがあれば対応せざるを得ない」などと発言したことが報じられると反発、仲値公示に向けたドル買いも追い風となり一時100円68銭まで上昇。その後は一旦100円40銭台に反落したが、急激な円高一服を好感して日経平均株価が3営業日ぶりに反発、後場に入って上昇幅を拡大すると市場のリスク許容度萎縮懸念が緩和、一時101円17銭と日通し高値を記録。ただ、この水準では海外ファンド勢による戻り売り興味も強く、上値の重さが確認されると100円80銭台に押し返される。欧州時間帯に入り、序盤はドル売り・円買いが先行、時間外取引のNYダウ先物の下落が重石となり、一時100円65銭付近へ続落。NYダウ先物が反発するとドル円も切り返したが、100円80銭台では伸び悩み、100円60銭台に押し戻される。NY時間帯に入り、序盤は100円60銭台～70銭台での様子見が続いたが、安寄りしたNYダウの下げ幅拡大が嫌気されるとドル売り・円買いが加速、一時100円17銭界限まで軟化して東京安値を下抜け。その後は米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録の発表待ちムードが漂い、100

本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

円20銭台～30銭台で保ち合ったが、日本時間27:00に公表された同議事録で早期の利上げ再開の是非について参加者の意見が割れていたことが判明すると複雑な売買が錯綜、一時100円66銭付近へ急伸した後、100円04銭まで急落するなど、やや粗い値動きに。議事録公表直後の短期売買が一巡すると徐々に買い戻されたが100円30銭台では上値が重く、100円20銭台で東京勢の参入待ち。

8月18日(木)

東京時間帯は軟調。前夜のNY市場で公表された米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録の内容に対する複雑な市場解釈が錯綜する中で日経平均先物が下落すると市場のリスクセンチメントが悪化して節目の100円00銭を突破、安寄りした日経平均株価の下げ幅拡大が嫌気されると下値探査が加速、一時99円65銭と日通し安値を記録。ただ、この水準では政府による円高牽制への警戒感も強まって下げ渋り、「本日13:50から日銀は財務省・金融庁と情報交換会を開催する」と伝えられると反発、午前中に報じられた浅川財務官の「為替に過度の変動があればきちっと対応する」とのコメントもサポートなり、日本時間14:00頃には一時100円34銭まで持ち直す。ただ、日銀・金融庁・財務省の情報交換会が終了した後、浅川財務官が「三者会合は臨時で開いた」、「投機的な動きがあれば適切な措置を取る」などと述べると「新味に乏しい」との市場解釈が優勢になって反落、新規参入してきたロンドン勢も巻き込んだ下値探査が活発化すると一時99円74銭界限まで軟化。もともと、節目の100円00銭を割り込むと押し目買い注文も手厚く、日本時間17:30に発表された英7月小売売上高指数が市場予想を大幅に上回るとポンド円が急伸、ドル円も巻き込まれて一時100円50銭と日通し高値を記録。ただ、同じ材料に反応してポンドドル市場ではドルが売られたため、ドル円相場への影響は次第に減衰、100円20銭前後に押し戻される。NY時間帯に入り、米失業保険新規請求件数が市場予想より強めの結果を示すと一時100円49銭まで上昇したが、ロンドン高値の手前で失速すると一転して反落、一時99円85銭界限へ値を下げる。この間、翌月に開催される石油輸出国機構(OPEC)の非公式会合での減産合意への期待感から原油先物価格が6日続伸、対資源国通貨での米ドル売り圧力が強まったこともドル売り・円買いの材料とされた模様。ただ、節目の100円00銭を割り込むと手厚い押し目買い注文の存在も意識されて下げ渋り、NY市場の終盤にかけては99円90銭前後の下値が堅い一方、100円00銭台での上値が重たいレンジ取引に移行。99円90銭前後で週末の東京市場にバントタッチ。

8月19日(金)

東京時間帯は強含み。前日のNY市場終盤の水準を引き継ぎ、早朝に一時99円88銭と日通し安値を記録したが、東京勢の参入が始まると週末実質ゴトウ日の仲値公示を意識したドル買い・円売りが活発化、一時100円43銭付近まで上伸。仲値を過ぎると一旦失速、一時100円10銭界限へ押し戻されたが、前場引けでマイナス圏に沈んでいた日経平均株価が後場に入って持ち直し、プラス圏に復帰すると市場のリスク選好が改善、一時100円46銭と日通し高値を記録。ただ、前日高値の100円50銭が意識されると反落、100円10銭前後に押し返される。欧州時間帯に入り、序盤はドル売り・円買いが先行、一時100円04銭付近へ弱含んだが、今週何度も確認された100円割れ水準での底堅さが意識されると下げ渋り、その後はしばらく100円00銭台～20銭台でのレンジ取引に移行。NY時間帯に入り、序盤はドル買い・円売りが先行、今週売り進めた向きの週末を意識したショートカバーも散見され、一時100円38銭まで強含む。NYダウの安寄りが嫌気されると一時100円03銭まで差し込む場面もあったが、週明け15日に記録した18668.44ドルの史上最

本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

高値からの下げ幅は限定的であり、過去最高値圏での持ち高調整に過ぎないとの見方も強く、下値探査が一般するとNYダウの下げ幅圧縮に合わせてドル円も切り返し、100円30銭前後に持ち直す。もっとも、この日の米国市場では注目材料が殆ど見当たらず、その後は週末の接近を意識したレンジ取引に移行、100円10銭台～20銭台で一進一退。週末の終値は100円22銭。

8月22日(月)

週明けオセアニア市場の寄り付きは100円43銭と前週末終値から上方向に軽く窓開けオープン。週末20日(土)に産経新聞が黒田日銀総裁との単独インタビューで「総括的な検証の結果、追加緩和は十分あり得る」、「技術的にはマイナス金利の更なる引き下げも可能」などの見解を報じたほか、21日(日)にフィッシャー米連邦準備制度理事会(FRB)副議長が「2016年内の利上げが依然として検討されている」と述べたことなどが材料視され、日本時間未明の薄商いの中でドル買い・円売りが先行、一時100円91銭限界まで上昇。ただ、東京勢の参入が始まると前週末終値より上に置かれていた本邦外国為替保証金(FX)取引などの売り注文がヒット、100円28銭付近へ値を落とす。もっとも、前週末のNY市場終値の手前では下値が堅く、フィッシャーFRB副議長の発言が蒸し返されると米2年国債利回りが上昇、日経平均株価の上昇も追い風となり、日本株市場の大引け前には一時100円93銭とオセアニア時間帯の高値を上抜け。欧州時間帯に入り、序盤は東京タイムに買い進めた向きの利食い売りや海外ファンド勢による戻り売りが先行、米2年国債利回りの低下も重石となり、一時100円48銭へ値を落とす。断続的な下値探査が一般すると反発したが、100円60銭台では上値が重い。NY時間帯に入り、新規参入してきた米国勢がロンドンタイムの地合いを引き継いでドル売り・円買いを活発化させると下げが再加速、一時100円27銭と東京安値を僅かに下抜け。日通し安値を更新した達成感が広がるとショートカバーで巻き戻したが、100円50銭の手前が重く、日本時間24:00のロンドン・フィクシングに絡んだドル売りが観測されると一時100円21銭と日通し安値を更に更新。NY市場の終盤に向けては下げ渋ったが、100円30銭台では上値が重い。その後は持ち高調整中心の売買が錯綜して次第に値動きが細くなり、100円25銭～35銭までの狭い値幅で一進一退。100円30銭前後で東京勢の参入待ち。

8月23日(火)

東京時間帯は上値重たく弱含み。朝方は上値試しが先行、断続的に100円39銭付近に強含んだが、日経平均株価の安寄りが嫌気されると市場のリスク許容度が萎縮、一時100円04銭まで下落。日銀による上場投資信託(ETF)購入への期待を背景に日本株がプラス圏に切り返ししてくるとドル円も買い戻され、一時100円38銭まで持ち直す場面もあったが、日銀によるETF購入期待が不発に終わるとドル円も失速、一時99円99銭と午前中の安値を下抜け。ただ、心理的節目の100円00銭を割り込むと下値が堅く、100円10銭前後に買い戻される。欧州時間帯に入り、序盤は100円00銭の底堅さを試す動きが先行、他通貨市場でのドル安進行も重石になり、一時99円94銭と日通し安値を記録。ただ、100円割れの水準では押し目買い興味の強さが再確認され、下値試しが一巡すると100円20銭台に切り返した後、100円10銭前後に押し戻されるなど、方向感の出ない展開に。NY時間帯に入り、序盤はこの日3度目となる100円00銭割れを狙ったドル売り・円買いが先行、一時99円99銭付近へ軟化したが、この水準での底堅さが改めて確認されると反発、100円29銭まで値を戻す。もっとも、売り方の買い戻し以外に目立ったドル買い注文を持ち込む勢力も見当たらず、上値の重さが確認されると100円10銭前後に小反落。その後、カブ

本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

ラン米ダラス連銀総裁が「利上げの時期は近づいている」などと発言したことが報じられるとドル買い・円売り優勢に転じたが、100円20銭台では上値が重く、100円25銭前後で東京市場にバトンタッチ。

8月24日(水)

東京時間帯は伸び悩み。序盤に小緩み一時100円19銭付近に軟化する場面もあったが、前夜の海外市場で確認された99円90銭台での底堅さへの安堵感が広がると上値試しが積極化、高寄りした日経平均株価の上げ幅拡大も好感され、一時100円52銭付近へ上伸。ただ、この水準では上値も伸びず、一時100円20銭台へ軟化した後、100円30銭前後～40銭台までの狭いレンジに小反発して一進一退。欧州時間帯に入り、序盤は下値試しが先行、時間外取引の米2年国債利回りの低下を眺めつつ、一時100円10銭界限まで差し込んで日通し安値を記録。ただ、一段の下値探査ムードも盛り上がり、米2年国債利回りが下げ渋ると100円20銭を挟んで保ち合い。NY時間帯に入り、特段の手掛かりとなる材料が見当たらない中、26日(金)に控えるイエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長のジャクソンホール講演を意識した持ち高調整が入ると金と原油が大幅に下落、対資源国通貨で米ドル買いが進むとユーロドル市場にもドル高圧力が伝染、日本時間24:00のロンドン・フィキシングに絡んだドル買いの噂も飛び交い、ドル円も一時100円61銭まで上伸して日通し高値を記録。ただ、この水準では上値が重く、原油価格の急落にプレーキが掛ると対資源国通貨での米ドル買いが一巡、ロンドン・フィキシングを通過するとドル円も反落、100円40銭台に押し戻される。NY市場の終盤に向けては持ち高調整中心の値動きとなり、100円40銭台で東京勢の参入待ち。

8月25日(木)

東京時間帯は上値が重い。イエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長の講演を翌日に控えた様子見ムードが強い中、朝方はゴトウ日の仲値公示に絡んだドル買い観測による上値試しが先行、一時100円62銭まで上昇したが、実需の買いがそれほど大きくなかったことで反落100円39銭付近へ小反落。仲値絡みの需給トークが一巡すると反発したが、100円50銭台では上値が重く、後場寄り後にプラス圏に浮上していた日経平均株価が引けにかけてマイナス圏に沈み込むと日本株と為替の連動性を意識した売りがやや強まり、100円36銭界限へ軟化して午前中の安値を僅かに下抜け。欧州時間帯に入り、序盤は買い戻しが優勢になって100円45銭前後に小戻したが、時間外取引のNYダウ先物が軟化するとドル売り・円買い圧力が強まり、一時100円30銭と日通し安値を記録。ただ、この水準では下値が堅く、NYダウ先物が下げ渋ると100円40銭台に持ち直す。NY時間帯に入り、ジョージ米カンザスシティ連銀総裁が「(利上げ再開に関して)過度の辛抱強さは正当化されない」、「短期的な利上げにとって良い頃合いだ」などと述べたことが伝わるとドル買い・円売り圧力が強まって100円50銭付近へ上伸。その後は一旦100円45銭前後に伸び悩んだが、米7月耐久財受注や米失業保険新規申請者数がいずれも市場予想を上回ったことが判明すると一段高となり、一時100円61銭界限まで続伸。東京午前に記録した日通し高値を目前にすると伸び悩み、100円50銭前後に押し戻されたが、この日の米国市場ではカンザスシティ連銀総裁の発言が意識されて米2年国債利回りが上昇したほか、米7年国債の入札結果が低調だと受け止められて米10年国債利回りも上昇したため、引けにかけては再びドル買い・円売り圧力が強まり、一時100円61銭まで上伸。もっとも、イエレン米FRB議長のジャクソンホール講演を翌日に控えた様子見ムードはなかなか

本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

か解けず、日通し高値の手前では失速、100円50銭台に押し戻されて東京市場にバトンタッチ。結局、この日の値幅は東京、ロンドン、NYの3市場ベースでも32銭に抑えられた。

8月26日(金)

東京時間帯は底堅い。NY市場終盤の水準を引き継ぎ、朝方は100円50銭台のレンジ取引で始動、一時100円59銭付近に強含む場面もあったが、100円60銭台に乗れずに失速、安寄りした日本株の冴えない動きも嫌気され、一時100円39銭界限へ弱含む。ただ、イエレン米連邦準備制度理事会(FRB)議長の講演を控えて積極的な売買は盛り上がり、仲値を目前に切り返すと100円50銭前後に持ち直す。後場寄り後の日経平均株価が終日マイナス圏で推移、引けにかけて下げ幅を拡大すると株価とドル円の連動性に着目した下値探査を再開、一時100円39銭まで軟化した。午前中の安値に面合わせすると下げ渋り、100円40銭台に値を戻す。結局、この日の東京市場の値幅は僅か20銭に収まった。欧州時間帯に入り、序盤にまとまった規模のドル買いが持ち込まれると上伸、一時100円54銭まで上伸する場面もあったが、イエレン米FRB議長の講演待ちムードが強まる中で積極的売買は盛り上がり、100円40銭台～50銭前後までの狭いレンジでしばらく膠着。NY時間帯に入り、序盤はイエレン議長の講演を意識した神経質な売買が錯綜、時間外取引のNYダウ先物の下落が心理的な重石となったほか、ブロード米セントルイス連銀総裁が「金融政策の正常化計画を見直す時期にある」と述べたことも一部で材料視され、一時100円20銭付近まで軟化。イエレン米FRB議長講演前の持ち高調整が一巡すると100円30銭前後で「イベント待ちモード」に入ったが、日本時間23:00に始まったイエレン議長の講演で「米利上げの根拠がこの数ヶ月間で強まった」と発言したことが最初に報じられると急伸、一時100円91銭まで吹き上がって東京高値を大幅に上抜け。ただ、その後イエレン議長が「将来、幅広い資産の購入を検討する価値がある」、「金融政策運営は予め決まっておらず、データ次第」などと述べたことが伝わると一転急落、一時100円06銭まで差し込んで日通し安値を記録するなど、かなり粗い値動きに。もともと、節目の100円00銭に接近すると中旬以降に幾度も確認された99円90銭台での底堅さが意識されて急反発、ストップロスを誘発しながら節目の101円00銭を突破した後、フィッシャー米FRB副議長が米CNBCのインタビューに対して「景気の力強さが増したことは証明済み」、「イエレン議長の発言は9月利上げの可能性と整合的」などと述べたことが報じられるとドル買い・円売りが再加速、一時101円50銭界限へ急伸。急ピッチの買いが一服すると利益確定売りも散見されて101円20銭台に伸び悩んだが、NY市場の終盤に向けてはFRB正副議長の発言を踏まえて米2年国債利回りが一段と上昇してドル買い・円売り圧力が再燃、一時101円94銭まで続伸して週通し高値を記録。週末の取引終了時刻が接近すると手仕舞い売りで伸び悩んだが、101円70銭台では下値が堅く、101円84銭で週末引け。

8月29日(月)

週明けオセアニア市場は101円86銭で寄り付いた後、週末27日(土)の米ジャクソンホール・シンポジウムで黒田日銀総裁が「必要ならば躊躇なく追加緩和を行う」、「マイナス金利に限界はあるが現状ではまだそこまで達していない」、「量・質・金利のいずれの面でも追加緩和の余地は十分にある」などと述べたことが材料視され、日本時間早朝5:53頃に一時102円14銭まで急伸。ただ、この日は月末のスポット取引最終応当日にあたるため、東京勢の本格参入が始まると国内輸出企業のドル売りが警戒されて急降下、一時101円84銭まで値を落とす。もともと、前週末の終値に面合わせすると週末挟みで鮮明になった日米金融政策の印象格差が蒸し返されて下値も堅く、102円05銭付近へ切り返した後、

本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

101円85銭に押し戻されるなど、神経質な売買が錯綜。その後、前週末の円高一服と黒田日銀総裁の発言が好感されて日経平均株価が大幅高で寄り付くと日本株と為替の連動性の高さに着目した買いが一瞬盛り上がり、一時102円16銭とオセアニア市場の高値を僅かに上抜け。仲値公示の時間帯にかけては本邦実需筋によるドル売りの噂もあって反落、一時101円84銭まで差し込んだが、朝方に記録した日通し安値に面合わせすると下値が堅い。午後にかけては日本株睨みの展開となり、日経平均株価が終日堅調に推移、前週末比+376円78銭高で3営業日ぶりに反発するのを眺めて断続的な上値探査が継続、日本時間15:30過ぎには一時102円39銭まで上昇して8月9日(火)以来の高値を記録。欧州時間帯に入り、東京市場で買い進めた向きの利益確定売りや戻り売り圧力が強まると反落、102円10銭前後に値を落とす。ただ、この日は英国がサマーバンクホリデーのため全般的に売買が低調であり、下値の堅さが確認されると102円20銭前後に小反発。NY時間帯に入り、序盤はドル買い・円売りやや優勢に始まって上伸、日本時間21:30に発表された米7月個人所得・消費統計で名目所得が前月比+0.4%、消費が同+0.3%と概ね市場予想通りだったものの、12日(金)に発表された米7月小売売上統計ほど弱くなかったことも一部で好感され、断続的に102円31銭付近まで値を上げる。ただ、この日の米国市場では前週末に大幅上昇した反動で米2年国債利回りや10年国債利回りが低下したため、引けにかけてはドルの上値が次第に切り下がる展開に。大引け前に一時101円87銭界限へ軟化したのが、日通し安値の手前が堅く、101円90銭前後で東京市場にバトンタッチ。

8月30日(火)

東京時間帯は堅調。朝方はドル買い・円売りが先行、断続的に102円00銭台に浮上したが、上値の重さが確認されると反落、月末最終ゴトウ日の仲値公示に向けたドル売りの思惑なども材料視され、一時101円76銭まで値を下げる。ただ、実際にはそれほど大きなドル売りのフローは観測されなかった上、安寄りした日経平均株価がプラス圏に浮上すると日本株とドル円相場の連動性に着目したドル買い・円売りが活発化、102円20銭台に切り返す。後場寄り後の日本株が再びマイナス圏に反落するとドル円も伸び悩み、102円00銭台に弱含んだが、ロイター・ニューズメーカーで講演した菅官房長官が、「過度の為替変動に対して、断固として対応できる体制を取っている」、「財務省・金融庁・日銀の三者会合を定例化した」、「為替には常に最大の関心を持っており、その時々によって必要なことを行う」などと述べたことが材料視されると上値探査が活発化、一時102円31銭と午前中の高値を上抜け。欧州時間帯に入り、新規参入してきた連休明けのロンドン勢が菅官房長官発言を蒸し返したほか、時間外の米10年国債利回りの上昇が追い風となり、一時102円45銭と東京高値を上抜け。その後は一旦102円20銭台に押し戻されたが、浜田内閣府参与が「為替介入が難しい場合は日銀による外債購入も選択肢になる」、「為替市場の過度の変動には日本政府が市場介入すべき」、「投機によって為替市場が歪められている」などと述べたことが報じられると反発、フィッシャー米連邦準備制度理事会(FRB)副議長がブルームバーグテレビに対して「利上げに関して年内1度だけとは言えない」と述べたことも追い風となり、一時102円43銭まで値を戻す。ただ、同副議長の発言は29日(金)のCNBCインタビューの内容と大差が無かった上、冒頭の発言に続いて「利上げの道筋についてはデータ次第」との見解が示されると102円17銭付近に小反落。もっとも、102円20銭を割り込むと下値も堅く、フィッシャー米FRB副議長発言が終了すると102円30銭前後に反発して一進一退。NY時間帯に入り、新規参入してきた米国勢がアジア時間

本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

帯に報じられた菅官房長官や浜田内閣府参与の発言を蒸し返すとドル買い・円売り圧力が再燃、日本時間23:00に発表された米8月コンファレンスボード消費者景気信頼感指数が市場予想を上回ったことも好感され、一時102円84銭と2日(火)に記録した月初来高値を僅かに上抜け。月初来高値突破の達成感が広がると一旦102円60銭台に反落する場面もあったが、下値の堅さが確認されると上値探査を再開、対資源国通貨でのドル高進行も追い風となり、一時103円14銭と7月29日以来の高値圏に続伸。NY市場の終盤にかけては持ち高調整の売りで伸び悩んだが、102円90銭台では底堅く、103円00銭前後で東京勢の参入待ち。

8月31日(水)

東京時間帯は急伸後に反落。前日のNY市場で約1ヶ月ぶりの103円台に乗せた達成感から序盤は利益確定売りや戻り売りが先行、一時102円86銭限界へ下落したが、日経平均株価の高寄りが好感されると市場のリスク許容度緩和を当て込んだドル買い・円売りが活発化、月末最終営業日の仲値公示に向けたドル買いの噂も材料視され、一時103円23銭と前日に記録した月初来高値を上抜け。ただ、仲値を過ぎるとすぐに失速、午前中の需給トークが一巡すると断続的に値を下げ、102円90銭台に押し戻される。後場寄り後の日経平均株価が堅調に推移して上昇幅を拡大すると日本株とドル円相場の連動性に着目したドル買い・円売り圧力が再燃、日本株引け後には一時103円26銭と午前中の高値を上抜け。その後は一旦103円10銭台に小緩んだが、欧州時間帯に入って新規参入してきたロンドン勢も巻き込んだ上値探査が再開されると東京高値を突破、一時103円34銭まで続伸。アジア時間帯から買い進めた向きの利益確定売りが優勢になると反落、一時103円09銭まで軟化する一幕もあったが、下値の堅さが確認されると反発、一時103円34銭と日通し高値に面合わせ。NY時間帯に入り、序盤は米国経済指標の結果待ちモードで伸び悩み、103円20銭台～30銭前後で様子見となったが、米8月ADP全米雇用報告で民間非農業部門雇用者数が前月比+17.7万人と市場予想の17.5万人を僅かながら上回ったことが報じられると急伸、一時103円53銭まで吹き上がって7月29日以来の高値を更新。その後も米経済指標睨みの展開となり、米8月シカゴ地区購買部協会指数が市場予想を下回ると103円27銭限界へ反落、米7月中古住宅販売契約が市場予想を上回ると103円50銭付近へ切り返すなど、約1ヶ月ぶりの高値圏で一進一退。米経済指標の発表に絡んだ売買が一巡すると、欧州時間帯から買い進めていた向きの持ち高調整の売りに押されて反落したが、103円25銭前後の下値が堅く、103円40銭台に買い戻される。便宜上の月末終値として103円43銭を記録した後、翌月の東京市場にバトンタッチ。

(9月2日 11:30)

本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

Appendix A

アナリストによる証明

本レポート表紙に記載されたアナリストは、本レポートで述べられている内容（複数のアナリストが関与している場合は、それぞれのアナリストが本レポートにおいて分析している銘柄にかかる内容）が、分析対象銘柄の発行企業及びその証券に関するアナリスト個人の見解を正確に反映したものであることをここに証明いたします。また、当該アナリストは、過去・現在・将来にわたり、本レポート内で特定の判断もしくは見解を表明する見返りとして、直接又は間接的に報酬を一切受領しておらず、受領する予定もないことをここに証明いたします。

開示事項

三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社（以下「MUMSS」）は、MUMSSのリサーチ部門・他部門間の活動及び／又は情報の伝達、並びにリサーチレポート作成に関与する社員の通信・個人証券口座を監視するための適切な基本方針と手順等、組織上・管理上の制度を整備しています。

MUMSSの方針では、アナリスト、アナリスト監督下の社員、及びそれらの家族は、当該アナリストの担当カバレッジに属するいずれの企業の証券を保有することも、当該企業の、取締役、執行役又は顧問等の任務を担うことも禁じられています。また、リサーチレポート作成に関与し未公表レポートの公表日時・内容を知っている者は、当該リサーチレポートの受領対象者が当該リサーチレポートの内容に基づいて行動を起こす合理的な機会を得るまで、当該リサーチに関連する金融商品（又は全金融商品）を個人的に取引することを禁じられています。

アナリストの報酬の一部は、投資銀行業務収入を含むMUMSSの収益に基づき支払われます。

MUMSS及びその関連会社等は、本レポートに記載された会社が発行したその他の経済的持分又はその他の商品を保有することがあります。MUMSS及びその関連会社等は、それらの経済的持分又は商品についての売り又は買いのポジションを有することがあります。

MUMSS・その他MUFG関連会社、又はこれらの役員、提携者、関係者及び社員は、本レポートに言及された証券、同証券の派生商品及び本レポートに記載された企業によって発行されたその他証券を、自己の勘定もしくは他人の勘定で取引もしくは保有したり、本レポートで示された投資判断に反する取引を行ったり、マーケットメーカーとなったり、又は当該証券の発行体やその関連会社に幅広い金融サービスを提供しもしくは同サービスの提供を図ることがあります。

MUMSSの役員（以下、会社法（平成17年法律第86号）に規定する取締役、執行役、又は監査役又はこれらに準ずる者をいう）は、次の会社の役員を兼任しています：三菱UFJフィナンシャル・グループ、カブドットコム証券、三菱倉庫。

免責事項

本レポートは、MUMSSが、本レポートを受領されるMUMSS及びその関連会社等のお客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の有価証券の売買の推奨あるいは特定の証券取引の勧誘、申込みを目的としたものではありません。

本レポート内でMUMSSに言及した全ての記述は、公的に入手可能な情報のみに基づいたものです。

本レポートの作成者は、インサイダー情報を使用することはもとより、当該情報を入手することも禁じられています。MUMSSは株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ(以下「MUFG」)の子会社等であり、MUMSSの方針に基づき、MUFGについては投資判断の対象としておりません。

本レポートは、MUMSSが公的に入手可能な情報のみに基づき作成されたものです。本レポートに含まれる情報は、正確かつ信頼できると考えられていますが、その正確性、信頼性が客観的に検証されているものではありません。本レポートはお客様が必要とする全ての情報を含むことを意図したものではありません。また、MUMSS及びその関連会社等は本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。

本レポート内で示す見解は予告なしに変更されることがあり、また、MUMSSは本レポート内に含まれる情報及び見解を更新する義務を負うものではありません。ここに示したすべての内容は、当社の現時点での判断を示しているに過ぎません。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、当社自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について当社は一切責任を負いません。

当社は、本レポートの論旨と一致しない他のレポートを発行している、或いは今後発行する場合があります。また、MUMSSは関連会社等と完全に独立してレポートを作成しています。そのため、本レポート中の意見、見解、見通し、評価及び目標株価は、異なる情報源及び方法に基づき関連会社等が別途作成するレポートに示されるものと乖離する場合があります。

本レポートで直接あるいは間接に採り上げられている有価証券は、価格の変動や、発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがあります。また、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。本レポートにて言及されている投資やサービスはお客様に適切なものであるとは限りません。お客様は、独自に特定の投資及び戦略を評価し、本レポートに記載されている証券に関して投資・取引を行う際には、専門家及びファイナンシャル・アドバイザーに法律・ビジネス・金融・税金その他についてご相談ください。

MUMSS及びその関連会社等は、お客様が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる結果のいかなるもの（直接・間接の損失、逸失利益及び損害を含むがこれらに限られない）についても一切責任を負わないと共に、本レポートを直接・間接的に受領するいかなる投資家に対しても法的責任を負うものではありません。

本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

本レポートの利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。

過去のパフォーマンスは将来のパフォーマンスを示唆し、又は保証するものではありません。特に記載のない限り、将来のパフォーマンスの予想はアナリストが適切と判断した材料に基づくアナリストの予想であり、実際のパフォーマンスとは異なることがあります。従って、将来のパフォーマンスについては明示又は黙示を問わずこれを保証するものではありません。

本レポートの利用に際しては、上記の一つ又は全ての要因あるいはその他の要因により現実的もしくは潜在的な利益相反が起こりうることをご認識ください。なお、MUMSSは、会社法第135条の規定により自己の勘定でMUFG株式の売買を行うことを禁止されています。

本レポートで言及されている証券等は、いかなる地域においても、またいかなる投資家層に対しても販売可能とは限りません。本レポートの配布及び使用は、レポートの配布・発行・入手可能性・使用が法令又は規則に反する、地方・州・国やその他地域の市民・国民、居住者又はこれらの地域に所在する者もしくは法人を、対象とするものではありません。

英国及び欧州経済地域: 本レポートが英国において配布される場合、本レポートは MUFG のグループ会社である MUFG Securities EMEA plc (以下「MUS(EMEA)」)。電話番号 : +44-207-628-5555) により配布されます。MUS(EMEA)は、英国で登録されており、Prudential Regulation Authority (プルデンス規制機構、「PRA」) の認可及び Financial Conduct Authority (金融行動監視機構、以下「FCA」) と PRA の規制を受けています(FS Registration Number 124512)。本レポートは、professional client (プロ投資家) 又は eligible counterparty (適格カウンターパーティー) 向けに作成されたものであり、FCA 規則に定義された retail clients (リテール投資家) を対象としたものではありませんので、誤解を回避するため、同定義に該当する顧客に交付されてはならないものです。MUS(EMEA) は、本レポートを英国以外の欧州連合加盟国においても professional investors (若しくはこれと同等の投資家) に配布する場合があります。本レポートは、MUS(EMEA)の組織上・管理上の利益相反管理制度に基づいて作成されています。同制度には投資リサーチに関わる利益相反を回避する目的で、情報の遮断や個人的な取引・勧誘の制限等のガイドラインが含まれています。本レポートはルクセンブルク向けに配布することを意図したものではありません。

米国: 本レポートは Mitsubishi UFJ Morgan Stanley Securities Co., Ltd. (以下「MUMSS」) によって作成されたものです。MUMSSは日本で証券業務の認可を取得しております。本レポートが米国において配布される場合、本レポートは MUFG のグループ会社である MUFG Securities Americas Inc. (以下「MUS(USA)」)。電話番号 : +1-212-405-7000) により配布されます。MUS(USA)は、United States Securities and Exchange Commission (米国証券取引委員会) に登録された broker-dealer (ブローカー・ディーラー) であり、Financial Industry Regulatory Authority (金融取引業規制機構、「FINRA」) による規制を受けています (SEC# 8-43026; CRD# 19685)。本レポートが MUS(USA)の米国外の関連会社等により米国内へ配布される場合、本レポートの配布対象者は、1934年米国証券取引所法の規則 15a-6 に基づく major U.S. institutional investors (主要米国機関投資家) に限定されています。本レポートは証券の売買及びその他金融商品への投資等の勧誘を目的としたものではありません。また、いかなる投資・取引についてもいかなる約束をもするものでもありません。本レポートが米国で大手機関投資家以外の個人に配布される限りにおいて、MUS(USA) は以下の条件のもとでその内容について責任を負っています。本レポートの執筆者であるアナリストは、リサーチアナリストとして FINRA への登録ないし FINRA の資格取得を行っておらず、MUS(USA)の関係者ではない場合があります。したがって、調査対象企業とのコミュニケーション、パブリックアピランス、アナリスト本人の売買口座に関する FINRA の規制に該当しない場合があります。FLOES は MUS(USA) の登録商標です。

IRS Circular 230 Disclosure (米国内国歳入庁 回示 230 に基づく開示) : MUS(USA)は税金に関するアドバイスの提供は行っていません。本レポート内 (添付文書を含む) の税金に関する記述は MUS(USA)及び関連会社以外の個人・法人が本レポートにおいて研究する事項に関する勧誘・推奨を行う目的、又は米国納税義務違反による処罰を回避する目的で使用することを意図したのではなく、これらを目的とした使用を認めておりません。

日本: 本レポートが日本において配布される場合、その配布は MUFG のグループ会社であり、金融庁に登録された金融商品取引業者である MUMSS (電話番号 : 03-6742-4550) が行います。

シンガポール: 本レポートがシンガポールにおいて配布される場合、本レポートは MUFG のグループ会社である MUFG Securities Asia (Singapore) Limited (以下「MUS(SPR)」)。電話番号 : +65-6232-7784) とのアレンジに基づき配布されます。MUS(SPR)はシンガポール政府の承認を受けた merchant bank であり、Monetary Authority of Singapore (シンガポール金融管理局) の規制を受けています。本レポートの配布対象者は、Financial Advisers Regulation of the Regulation 2 に規定される institutional investors、accredited investors、expert investors に限定されます。本レポートは、これらの投資家のみによる使用を目的としており、それ以外の者に対して配布、転送、交付、頒布されてはなりません。本レポートが accredited investors 及び expert investors に配布される場合、MUS(SPR)は Financial Advisers Act の次の事項を含む一定の事項の遵守義務を免除されます。第 25 条 : 一定の投資商品に関してファイナンシャル・アドバイザーが全ての重要情報を開示する義務、第 27 条 : ファイナンシャル・アドバイザーが合理的な根拠に基づいて投資の推奨を行う義務、第 36 条 : ファイナンシャル・アドバイザーが投資の推奨を行う証券に対して保有する権利等について開示する義務。本レポートを受領されたお客様で、本レポートから又は本レポートに関連して生じた問題にお気づきの方は、MUS(SPR)にご連絡ください。

香港: 本レポートが香港において配布される場合、本レポートは MUFG のグループ会社である MUFG Securities Asia Limited (以下「MUS(HK)」)。電話番号 : +852-2860-1500) とのアレンジに基づき配布されます。MUS(HK)は Hong Kong Securities and Futures Ordinance に基づいた認可、及び Securities and Futures Commission (香港証券先物取引委員会 ; Central Entity Number AAA889) の規制を受けています。本レポートは Securities and Futures Ordinance により定義される professional investor を配布対象として作成されたものであり、この定義に該当しない顧客に配布されてはならないものです。

その他の地域: 本レポートがオーストラリアにおいて配布される場合、MUS(HK)又は MUS(SPR)により配布されています。MUS(HK)は Australian Securities and Investment Commission (ASIC) Class Order Exemption CO 03/1103 に基づき、Corporations Act 2001 が定める金融サービスの提供者によるオーストラリア金融業免許の保有義務を免除されています。MUS(SPR)は ASIC Class Order

本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。

Exemption CO 03/1102により同様に義務を免除されています。本レポートはオーストラリアの Corporations Act 2001 に定義される wholesale client のみを配布対象としております。本レポートがカナダにおいて配布される場合、本レポートは MUS(EMEA)又は MUS(USA)により配布されます。MUS(EMEA)および MUS(USA)は international dealer exemption の措置により次の各州において金融取引業者としての登録を免除されています：アルバータ州、ケベック州、オンタリオ州、ブリティッシュ・コロンビア州、マニトバ州（MUS(EMEA)のみ）。本レポートはカナダにおける National Instrument 31-103 によって定義された permitted client のみを配布対象としております。

又は本レポートは、インドネシアにおいて複製・発行・配布されてはなりません。また中国（中華人民共和国「PRC」を意味し、PRCの香港特別行政区・マカオ特別行政区、及び台湾を除く）において、複製・発行・配布されてはなりません（ただし、PRCの適用法令に準拠する場合を除きます）。

本レポートは、米国、日本やその他の証券規制法規により配付を制限されている投資家、および個人投資家を対象にしたものではありません。

債券取引には別途手数料はかかりません。手数料相当額はお客様にご提示申し上げる価格に含まれております。

Copyright © 2016 Mitsubishi UFJ Morgan Stanley Securities Co., Ltd. All rights reserved.

本レポートは MUMSS の著作物であり、著作権法により保護されております。MUMSS の書面による事前の承諾なく、本レポートの全部もしくは一部を変更、複製・再配布し、もしくは直接的又は間接的に第三者に交付することはできません。

〒100-8127 東京都千代田区大手町1丁目9番2号 大手町フィナンシャルシティ グランキューブ
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 リサーチ部

（商号） 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2336号

（加入協会）日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、利用に際してはお客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。巻末に重要な注意事項を記載していますので、ご参照下さい。